

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2018年12月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第600号

「自己責任」という言葉が横行している。たとえば、理不尽な暴力によって傷ついたシリアの人々の現状を伝えようととしてISに拉致されたジャーナリストへのパッシングとして。あるいは、人身事故で電車の遅延が知らされたときの満員電車のなかで聞こえてくる「死ぬなら他でやれ」「迷惑かけるなよ、自己責任だろう」というつぶやきとして。現代の自己責任論は、失敗し躓いたのは、失敗し躓いた本人の責任であるとする。

しかし、ある社会学者によれば、責任には、「responding for」(受け止める)と「responding to」(応答する)という次元があるのだという。それは、傷つき躓いた本人の声(あるいは声なき声)を個人や社会がまず「受け止め」ること、そして個人や社会の方が、傷つき躓いた本人に対して果たすべき「応答」を行うということだ。この意味での「責任」には、「sympathy」(共感)や「compassion」(共苦)や「苦悩」ともにすること(「自己責任」の意味)という意味が埋め込まれている。イエス

の十字架がわたしたちの想像を超える「共感」や「共苦」の頭れだとしたら、「自己責任」が大手をふるうこの社会は、イエスの生き方から、最も離れた有り様を示していると言えるだろう。

丸木位里、丸木俊による「カラス」という作品には、原爆の犠牲になった死体にむらがるカラスの群れが描かれ

## 〈世界〉にふれる出会いの場をつくる



関東運営委員 金 迅 野

一番最後まで残った朝鮮人たちの死骸の頭目ん玉ば、カラスが来て食うとよ。カラスが目ん玉ば食いよる」。

長崎に原爆が投下された日から9ヶ月が経った頃、長崎で「原爆美人コンテスト」が開催されている。計り知れない苦悩、痛みが、いとも簡単

ている。石牟礼道子はこの絵のキャプションを以下のように書いた。「原爆がおつちやけたあと、一番最後まで死骸が残ったのは朝鮮人だったよ。日本人はたくさん生き残ったが、朝鮮人はちよつとしか生き残らんじやつたけん。どがんもこがんもできん。カラスは空から飛んでくるけん、うんと来たばい。それで

に忘却されて、まるでなにごとにもなかつたかのように日常が構成される世界の在り方を、辺見庸は「コーティング」という言葉で表現した。70年を超える時間を経て、わたしたちは、コーティングにコーティングを重ねた「世界」を生きている。そのような「世界」に対して、丸木夫妻や右牟礼が渾身の力をもってコーティングの皮膜を引き裂いて見せた「世界」がある。わたしたちが「受け止め」、「応答」

すべき人間の苦悩や痛みの経験が息づく「世界」が。ハンナ・アーレントによれば、人間の条件は「複数性(一人つきりて生きていけないということ)」にあるという。

この「複数性」を最も端的に示すのが「出会い」による他者との結びつきであり、「出会い」には「複数性」に依拠する「赦し」と「約束」が息づいている。「責任」を果たすために他者の苦悩や痛みを「受け止め」ることには、どこかで自分を削ることで顕れる「赦し(十字架)」が秘められうるし、また「応答」には、いま、ここがない事柄への「約束(復活)」が埋め込まれる。これこそが「自己責任論」に決定的に欠けているものであり、わたしたちが「世界」に触れる在り方であろう。

自己責任とコーティングの「世界」に抗うために、他者の苦悩/痛みを「受け止め」、「世界」への様々な応答のあり方に誰かと共に触れる「出会い」の運動を練り上げていくこと。アカデミーは、そのことの「責任」を負っているのではないだろうか。

(マイノリティ宣教センター 主事)

関東活動センター

●2018年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ 特別企画

「編集者がその本音を語る」第5回

「市川邦雄さんに聞く」

『キリスト教出版の低迷と課題』

ゲスト コイノニア社設立者 市川 邦雄さん  
聞き手 農村伝道神学校講師 武田 利邦さん

2018年10月19日(金)  
会場 カフェ・エクレシヤ(台東区蔵前)



10月19日、蔵前の「カフェ・エクレシヤ」を会場に行われました。

市川さんは案内文書に「日本のキリスト教書の売り上げは1981年に20億円を超え、92年に28億円に達すると、2003年に20億を切り、以下下降線をたどって12億円になりました。このキリスト教書の売り上げ状況と日本キリスト教界の教勢の推移はほぼパラレルと思われます。(中

略)90年代半ばから教勢の低迷が見られ、教団は伝道強化を訴えて教勢の回復を図りますが成果は見られていません。なぜそうなのか、みなさんと話し合う機会としたいと思います。思います。」と書いており、明確な問題設定の下で、充実した協議が行われました。

(1) 経歴  
1968年に日本基督教団出版局に入り、70年には日本YMCA同盟出版部に入職し、76年に退職後キリスト教総合誌『季刊創造』の編集に携わりました。これが5号で廃刊となったので聖文舎を退職、アルバイトの後80年にYMCA出版部に戻りました。800万円の赤字があったのですが、80年代の仕事

は楽しかったです。『平和の本』は1万部刷り、その後5刷まで出しました。四色刷りで原本よりいいといわれました。キャンペーン集は何万部も売れました。その後、YMCAの主事として横浜予備校や、東山荘の所長を経て、2001年に60歳の定年前に退職しました。そこで若いころから携わって来たキリスト教出版をやりたいと思い、『コイノニア社』を立ち上げました。(02年)日本の聖書学は高いレベルにあるのでそれを信徒のところに届けたいと思ってきました。

(2) 高校3年末、初めて新約聖書を通読  
自分の体験ですが「ゲッセマネの祈り」は誰にも聞こえないはずじゃないかと思っていたら田川建三さんがそのことを言い、「ああやっぱり」と思いました。信仰を前提としない読み方があってもいいと思ひ、信仰の多様性を含め、広い層に届く「説教集」を出したいと思ひました。「神の言葉」とか「福音書文学」という表現にも違和感を感じていました。

(3) 田川建三『原始キリスト教史の一断面』を読む  
大卒3年の頃読んで、「信仰を前提としない」という読み方が衝撃でした。聖書を歴史資料として文献学的に読むのは当然と考えました。ただ聖書は神への信仰に基づいて書かれている以上、信仰をもって読むというのは正論です。古代人と同じ信仰に立てるわけではないので「信仰の多様性」は認めざるを得ません。

(4) 「福音書文学の成立」という問題  
「仏教は哲学」(存在論)という言い方に対し、「キリスト教は文学」(関係論)と捉えると、キリスト教が分かりやすくなりました。国連のSDGs(持続可能な成長目標)持続可能な社会の形成には、課題が100項目以上あります。核(兵器) 廃絶・環境・教育問題、較差・貧困問題、食糧・飢餓問題、女性差別、子どもの人権、eG—CS(勝手に)読む中で、今日的(日常的)課題を話し合う場をもつ。こうしたことはすでにフェミニズムやエコロジー神学が問題にしています。

(5) 歴史は女性が継承する  
マгдаラのマリアがイエスの最も愛し、信頼した女性(弟子)で、イエスの死後宣教活動をしたとすれば、小アジア、ローマのどこまでかは、かなりの部分彼女や他の女性たちが「家の教会」を形成していた可能性は高い。炊事・洗濯の場に女性なら入りやすい。山口里子さんが指摘していますが、パウロの差別発言は女性力がもっていたという証拠であり女性による歴史の継承の良い事例です。

(6) 最後に  
コイノニア社からは広石望さんの『イエス物語』や、荒井献さんの『人が神にならないために』、青野太潮さんの『十字架につけられしままなるキリスト』など10年間で、説教集、社会福祉関係の本を出しました。

パウロは「婦人は教会では黙っていなさい」など男性中心主義傾向がありますが、こうした「ヘイトスピーチ」を批判したり、「ジェンダーフリー」の視点から聖書に取り組むことが今後の課題ではないでしょうか。

関西セミナーハウス活動センター

●2018年度「開発教育セミナー」第4回  
「新しい日米外交を切り拓く」  
〜沖繩・安保・原発・TPP〜

特定非営利活動法人新外  
交イニシアティブ代表 猿田 佐世さん  
2018年10月13日(土)〜14日(日)

戦後日本は「自発的対米従属」の道を選んできたが、ブルトニウムの増大をアメリカが懸念していることにはふれずに原発を推進してきた。わずかに65万人とはいえ情報と権力が集中するワシントンに、日本は世界最多のロビイスト



を雇って(アメリカの知日派はせいぜい5〜30人らしい)利用している。これを猿田さんは「ワシントン拡声器」と表現した。日本の世論の過半数が辺野古の新基地にも原発再稼働にも反対なのに、自民党政権が民意と異なる政策を推進しているのか、もっと多様な日米の声を届けなければと猿田さんは新外交イニシアティブ(ND)を立ち上げた。NDは、「辺野古オルタナティブ」を提言している。沖繩駐留米軍の7割を占める海兵隊が再編される時、日米で人道支援・災害救助を行う常設部隊を作る。この部隊は沖繩から移転し、その費用は日本が持つ。高速輸送船も提供するというものだ。そもそも海兵

主のご降誕を  
お祝い申し上げます。



隊は1年の内8ヶ月は訓練でアジアを回っており、彼らが乗る艦船は佐世保にある。また、有事の際はカリフォルニア等からの部隊を待つて出動するのだ。基地は沖繩でなくてもよい。「地政学」も「抑止力」とも無関係なのだ。頭をフル回転して議論した2日間だった。

隊は1年の内8ヶ月は訓練でアジアを回っており、彼らが乗る艦船は佐世保にある。また、有事の際はカリフォルニア等からの部隊を待つて出動するのだ。基地は沖繩でなくてもよい。「地政学」も「抑止力」とも無関係なのだ。頭をフル回転して議論した2日間だった。

●2018年度「開発教育セミナー」第5回  
「今、外国人研修生は」  
〜私たちの社会と人権〜

RINKすべての外国人労働者とその家族  
の人権を守る関西ネットワーク事務局長 早崎 直美さん  
2018年11月3日(土)〜4日(日)

外国人労働者を増やすための入管法の改正案が、今回のセミナー前日の11月2日に閣議決定され、2019年4月からの施行が目指されている。そのような中で、講師の早崎さんから、外国人労働者や外国人技能実習生への支援の現場での経験や事例を通して、深刻な課題や不十分な制度について具体的な話を伺った。技能実習生の劣悪な労働



環境については、マスコミでも大きく取り上げられ、「最近では改善されてきている」ともされているが、様々な問題についての体制が整っていないのが現状である。

●協力プログラム  
金属労協  
第50回労働リーダースhipコース

主催：全日本金属産業労働組合協議会(JCM)  
2018年10月11日(木)〜27日(土)

本コースは、1967年東日本コースに続き、1969年から関西セミナーハウスを会場に「西日本労働リーダーシップコース」として始まった。その後東西統合の開催となり、今回第50回を迎えた。

東は、新潟や北関東から、西は九州熊本までの43名(内、女性5名)が共に学び合い、各産別、単組を超えて交流した。来年5月には、50周年記念行事が関西セミナーハウスで予定されている。

セミナーの最後には、4月から運用開始が予定されている出入国管理法改正案の課題点について、最新の報道記事をもとにして、参加者が4つのグループに分かれて整理した。参加者からは「高度経済成長期のようなモデルのない現在の社会において、縮小社会をどのようにイメージし生活スタイルを方向転換させていくのか」、「人権をキーワードに、外国人の人権は自己的人権とした社会づくりを進めていくべき」などの意見が出され、私たちにできることやこれからの社会が目指すべきことについて考え合うことができた。

### プログラム案内

#### ◆関東活動センター

■2018年度関東フォーラム 宗教対話V  
礼拝の話し方ワークショップ (ステップ・アップ講座)  
「礼拝の言葉を豊かに」

講師：友野富美子さん (経堂緑岡教会副牧師、元声優)

日時：2018年9月～2019年2月 (全6回)  
◎2019年1月8日◎2月12日  
火曜15:00～17:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会  
参加費：1回 1,200円

#### ■2018年度聖書を読む講座I

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(全10回)

講師：山口 里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：4月～2019年2月第2火曜  
18:30～20:00  
◎2019年1月8日◎2月12日

会場：早稲田奉仕園スコットホール 222 号室

参加費：1,200円/学生 500円  
共催：早稲田奉仕園

#### ■第10回神学生交流プログラム

講師：戒能信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

校長：関田寛雄さん (日本基督教団神奈川教区巡回牧師)

日時：2019年3月13日(水)～15日(金)

会場：イエズス会鎌倉黙想の家  
対象：学校推薦を受けた神学生

#### ◆関西セミナーハウス

##### ■月釜 清心会

日時：2019年2月10日(日)  
9:00～15:00 受付

於：関西セミナーハウス  
年会費：4,000円、臨時会費1,000円

#### ◆関西セミナーハウス活動センター

■2018年度修学院フォーラム「社会」  
第6回<エネルギーを考える第7回>  
「地震国日本で原発は安全であり得るか? なぜ再生エネルギーに踏み切れないのか?」

講師：竹本 修三さん (京大名誉教授)

木村 護郎クリストフさん (上智大学外国語学部ドイツ語科教授)

日時：2019年1月13日(日)16:00～14日(月祝)16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：14,200円 学生 5,200円(1泊3食、京都市宿泊税込)

第7回「キリスト教から見たナショナリズム—北方領土交渉を中心に」  
講師：佐藤 優さん (作家・元外務省主任分析官・同志社大学神学部客員教授)

日時：2019年1月26日(土)  
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス  
参加費：3,000円 学生 500円(コピー付)

■2018年度修学院フォーラム「福祉」  
第2回「キリスト教と社会福祉—他者の痛みへのコンパッション(共感共苦)をめぐる—」

講師：木原 活信さん (同志社大学社会学部教授)

日時：2019年2月16日(土)  
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス  
参加費：2,300円 学生 500円(コピー付)

#### 宿泊研修施設

#### 関西セミナーハウス <修学院きらら山荘>

～京都比叡山麓 四季折々の自然に恵まれた、静かな環境～

各種セミナー、学会、会議、合宿、修養会など多目的にご利用ください。大小6つの会議室、茶室、能舞台があります。個人様のご宿泊にもぜひお気軽に。駐車場無料。

ウェブ申込もできます お問合せ Tel 075-711-2115(代)

#### 財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

#### 関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

#### 関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

#### 関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

#### 公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

#### 本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23  
TEL 075-711-2147  
FAX 075-701-5256

#### 関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館 1F  
TEL 03-3207-6198

E-mail:info@academy-tokyo.com

#### 関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター  
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23  
FAX 075-701-5256

#### 関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

#### 関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail:office@academy-kansai.org

### 賛助会費・寄付金報告

2018年10月1日～10月31日

(順不同・敬称略)

#### ◆関東活動センター

##### 賛助会費

根津 建 5,000

林 律 10,000

松岡 俊彦 5,000

##### 寄付金

ワキタ シンジ 3

宮本 旻祐 5,000

##### 神学生交流プログラム寄付金

中村 信博 5,000

並木 浩一 10,000

根津 建 5,000

川北 かおり 10,000

小久保 正 10,000

松原 千里 3,000

島田 恒 10,000

大橋 祐治 3,000

橋口 仁 2,000

聖公会神学院 50,000

高柳 允子 1,000

浦上 充 3,000

母の会 真崎みよ子 5,000

#### ◆関西セミナーハウス活動センター

##### 賛助会費

福留 順子 5,000

岡安 茂祐 5,000

山本 貞子 3,000

##### 寄付金

京都キリスト教協議会(KCC) 20,000

山添 みどり 3,000

##### もみじまつり寄付金

中村 信博 5,000

八田 尚嘉 5,000

横野 朝彦 5,000

八田 一郎 3,000

久保田 展史 10,000

株式会社藤木工務店京都支店 10,000

シュペネマン クラウス 20,000

ひいらぎ税理士法人 20,000

山田 幸子 1,000

白方 誠彌 5,000

株式会社柴橋商会京都支店 10,000

井尻 勤 1,000

##### 開発教育セミナー寄付金

金山 顕子 3,650

以上、感謝をもってご報告申し上げます。